

子どもと大人の合同ワークショップ開催

毎年開催していた「子どもと大人の合同ワークショップ」。昨年は、コロナ禍のために、中止となってしまいました。今年は開催方法を変え、緊急事態宣言も解除された10月に開催することができました。

☆大きく変更

従来は、自治体内に6つある小学校から男女各2名(合計12名)が庁舎に集まり、子どもの権利擁護委員、子ども施策推進委員、教員の大人と一緒に「子どもの権利」について対話するというものでした。

この方法は、じっくりと対話するので、子どもたちだけでなく、大人にも長く心に残るものとなっています。ただ、毎年12名の子どもだけです。もう少し多くの子どもたちとじっくりと対話したいという願望が大人側にありました。

コロナ禍で1年休止したことを前向きに変更の機会ととらえることになりました。今回は、大人が小学校へ出かけていき、子どもたちと対話するのです。ちょうど、緊急事態宣言も解除されたタイミングでしたので、感染予防対策をしっかりと行いつつ、パイロットケースとして開催できました。

大人一人に子ども3人で、短い時間でしたが、じっくりと話すことができました。

☆開催後の感想

子どもたちからは、

- ・ 知らない大人がちゃんと話を聞いてくれた。
- ・ 子どもの権利は、身近なところにあるものだったんだ。

大人からは、

- ・ 子どもたちは、大人が考えるよりいろいろと考えていることを改めて認識した。
- ・ 今の子どもたちは、みんな忙しいなあ。

という感想がたくさんありました。

☆大人がファシリテート

大人にファシリテートをお願いしました。ファシリテーターのいない子どもとの対話は、初めてでしたが、子どもの話をまず聴くということや子どもの話を引き出すことができました。子どもの話を聴きたいという考え方を共有していたからできたのだろうと推測します。

*開催できるか?ぎりぎりまで不安でしたが、学校側のサポート、行政側の「きめ細かい配慮のお陰で無事に開催できました。こういう協働は素敵だと思いました。参加されたみなさまにも感謝。

